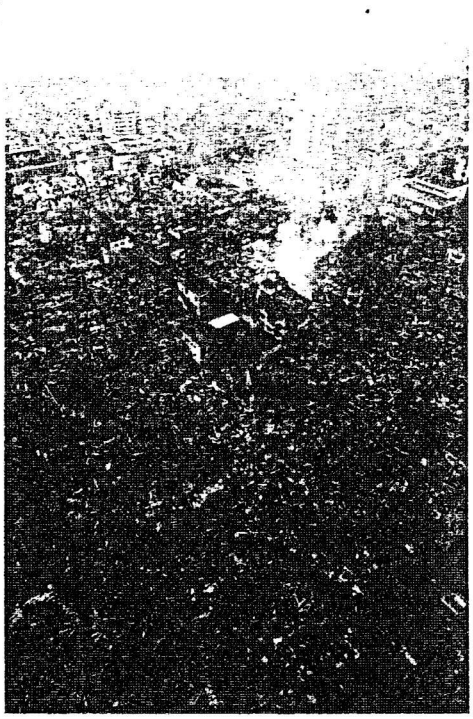
阪神大震災！死者5000人超

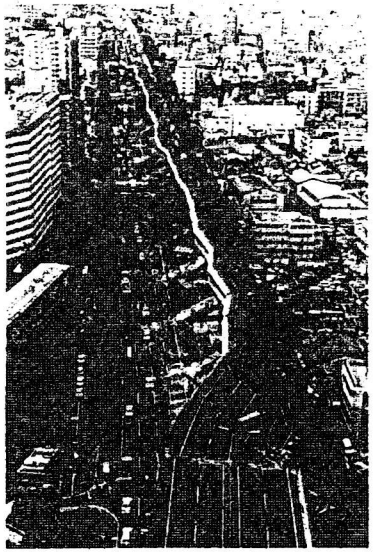
都市直下型震度7 神戸壊滅炎上

1月17日午前5時46分　淡路島を震源とするM7.2直下型地震（平成7年兵庫県南部地震）が起き、震度7の神戸市の他、兵庫県西宮、芦屋市、淡路島を中心に都市型震災による大災害に見舞われた。死者は、兵庫県が大半を占め、特に老人と子供の死者が際立ち、耐震技術神話で保証されていたはずの新幹線や高速道路、さらには、60年代以前の建物が次々に倒壊し、交通・通信機関や水道・ガス・電話・電気のライフラインも壊滅し、神戸市内では各所で火災が発生、消防活動不能な断水など都市機能マヒで夜を徹して延焼し百㌶を超える焼野原となった。倒壊家屋は約10万戸超に及び30万人が避難生活を強いられた。橋脚が倒壊し線路がつる下った状態の山陽新幹線は復旧に2カ月以上かかる見通しで、また高速道路の復旧も本格的には数年かかると言われ、建物の下敷きになった人びとの救出も、救援部隊が道路の大渋滞ではばまれるなど難航し、物資の運搬もままならず水・食糧不足となり、トイレも満杯、買い出しし、行列も復活し、まさに敗戦直後の状況になった。都市型大地震は1923年（大正12年）の関東大震災以来で、日本は初めて高度情報社会での都市震災を経験したことになった。地震源は活断層と呼ばれるプレートの傷に蓄積されたエネルギーによる断層のずれによるもので、関西は、1944年の南海地震以来大きな地震がなく、従来から関西は地震が少ないという油断が被害を拡大した。震度7という地震は、いきなりタテ振れからはじまって、強力なヨコ振れが続き突然家具が倒れるところからはじまるもので、夜明け前の就寝中を襲われ、なすすべを知らず、ショック状態で身動きできぬまま圧死、ショック死、下敷きのまま焼死した人も多かったようだ。また、スイスが19日捜査犬と援助隊を、米英伊が専門家の派遣を、韓加仏独露など60カ国・地域が支援を申し入れるなど諸外国から援助の手がさしのべられた。この震災は本書の扱う45―94年を超えた95年に入っての災害だったが、この未曽有の都市機能の混乱と騒擾の中でなされた取材を、戦後50年後に東京など他の大都市に悲劇を貽（のこ）す貴重な資料として後世に伝えることも重要な役割と思い、緊急増員編集をした。そうして、結局戦後50年の始まりと終わりは焼跡だった。

毎日ムック
「戦後50年」より



焼け野原となった
神戸市長田区の市街
…1/18 7時45分



めくれあがるように横転した阪神高速道路
…神戸市東灘区深江本町1/17 11時25分

倒壊した阪神高速神戸線…神戸市東灘区深江1/17 9時5分

大火が発生している神戸市須磨区…1/17 10時

阪神高速道路が崩壊し、潰ちそうになったバス
…西宮市兵庫町1/17 9時45分

阪神大震災について

8期　篠島　益夫（須磨区）

1月17日朝5時43分、私は連休が明けて、勤務先の広島へ向かう為、新神戸6時15分発の新幹線に乗るべく自宅の駐車場へ出て車のスターターをグルグル回し始めた…その時である。ドカーンという音と共に、車の天井に放り上げられた。あとは車は私と妻を車内に置いたままボールのようにポンポン跳ね廻っている。

初めは車のエンジンが爆発したと思ったが、慌ててライトのスイッチを回すと、家も庭木もバサバサ揺れまくっている。それで私も妻も、これは地震だと悟った。

20秒もあったかなかったか、少し収まってきたので車から出て、停電で真っ暗な家に飛び込んで二階の部屋に居る娘達に大声をかけた。一人は直ぐに反応あり。もう一人はなし。先に返事をした長女に「確かめろ」と指示して、妻には家の中、私は家の外廻りを懐中電灯を持ちながらひとまわり。植木鉢や物置の中は全部ひっくり返っているが、家の基礎などは問題なさそう。家の中へ戻って、反応未確認の次女の様子を聞くと「まだ寝ているが、何ともない」という長女の返答…全く平和な性格だとひと安心。「家の中は？」と妻に聞くと、本棚から本が沢山飛び出して落ちているが、台所などはたいしたことはなさそうという。直ぐ携帯ラジオをつけたが、「強い地震がありました」というだけ。どこで地震が発生したのか、これも不明のまま。

取り敢えず、広島の職場の関係者に電話を入れて「今日は職場には戻れない可能性大」の旨連絡する…ここまでが地震発生から15分間の午前6時までの私のドタバタ劇である。

幸いにも須磨区北部のニュータウンに位置する我が家の震災は、このレベルで始まったのである。その後、電話は近い所ほど不通となり、現在の職場である広島との連絡がどうにか取れる程度。かつて自分が担当した神戸の営業所も門真中市の本社も連絡不能で、情報は携帯ラジオだけ。地元民放の歩いて集めた情報から、とんでもない被災状況である事を知り、10時頃から、友人・知人の会社・自宅へ向かおうとしたが、道路は家を出て300mも行くと既に超渋滞で手が出ない…こんな状態で、翌朝までかけて数人の友人の安否を確認しただけで、18日は8時間かかって広島の職場へ復帰しました。

この未曾有の震災は、私の専門領域である「住まい」に関して、その安全面でいくつもの新しい要求をつきつけてくれる結果となり、「安全・健康住宅のあり方」に対して新しい答えを、ハード、ソフト、コストからチャレンジする壮大なテーマを残してくれました。

皆さんには天災から身を守る当面の生活法について、私の経験からコピーを添付して終わらせていただきます。

平成7年5月14日　広島にて

震災（自然災害）から身を守る工夫

＊住む場所

・都市計画に基づく住宅地に住む
　（宅造レベル・空地率）
・川が近く、きつい傾斜地は避ける
・1981年以降（耐震法見直し後）の住宅を選ぶ

＊生活

・近所付き合いの良さ（悪い人、地域貢献のない人は助けてもらえない）
・背の高い家具の持ち込みを避ける
・家具の転倒防止（クサビ、背バンド、L型金具）
・戸内車庫のある人は車を入れて置く
・ガス元栓のしめつけ
・風呂は使用後水をはっておく
・携帯TV、ラジオ、懐中電灯は枕元におく

＊情報確保

・電話は諦める（無線式が良い）
・携帯TV、ラジオにはかならず電池を入れておく
・自転車、ミニバイクが良い

＊備品（纏めて屋外収納庫で管理、アウトドア用品と一致）

・携帯TV、ラジオ、電灯

・携帯電源装置
・携帯コンロ、予備ガスボンベ
・寝袋、テント、クリーンポット
・レトルト、インスタント食品、ミネラルウォーター、調味料
・ナベ、カマ（飯盒、俎、コッフェル、プラスチック皿、コップ）

＊車（非常用住居）
・ミニバン、ピックアップワゴン、ジープワゴン

5期　山田　允（北区）

ご丁重なお見舞い状をいただきありがとうございました。幸い、居住地の北区は神戸市内では比較的被害が軽く、家屋および家族も無事であったことを喜んでおります。災害後の大阪までの通勤には苦労しましたが、4月1日付けで転勤し、現在は名古屋市内で単身生活を送っています。遅れましたが、勤務先等を連絡させていただきます。

阪神大震災とわが家について

6期　小川　修司（尼崎市）

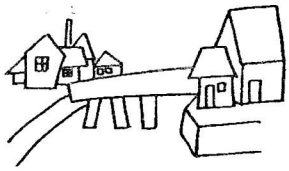
ＯＢとなって以来、ほとんど名ばかりの状態で心苦しい限りですが、一言お便り致します。

わが家は進度７の東の端より武庫川をはさんでほぼ２㎞のところにあります。マスコミで御存知のように、武庫川が防震材のように働いたのか？すぐ近くで犠牲者は出ない状況でした。全壊の家屋も少なく、外観上被害は小さいように見えましたが、４ケ月経過した今、補修をあきらめて取り壊す家屋が目立つようになっています。

地震は、近くの墓地の墓石が相当倒れていましたから、進度５以上は間違いなくあったようです。目が覚めた途端に家具が倒れ、家族の中で不覚にも私のみが十円ハゲを作る次第となりました。

電気は当日中に復旧し、ガス水道も不完全ながら２－３日中に復旧しましたので、大震災の中では被害は少ない状況です。家屋の方は私自身が大工と左官をしながら、ぼちぼち補修しています。

ＯＢ会幹事の皆様いろいろ御苦労様です。お世話になりっぱなしですが、今後ともよろしくお願いします。　Ｈ７．５．20



14期　楠屋　外茂子（西宮市）

１月17日未明、何が何だか分からない状態で飛び起きる。まず目に入ったのは、明かりが天井に向かってはねたかと思うと、パッと消えた事です。その間も突き上げが強く、まるでエグソシスト（？）状態。あとは真っ暗な中で、まるで家中が平行四辺形になってしまうかのような強烈な横揺れ。布団をかぶる余裕もなく、振り落とされないように只々ベッドにへばりつくだけ。それでも家の被害状況を推察しようと、耳をダンボにする…が、何も聞こえない。（食器棚、テレビ、箪笥、本棚が倒れ、シャンデリアが天井に当たって割れていたり…という事から考えて、何故だか分からない。）夫が雨戸を開けた音で、家が歪んでないと想像する。

身内の無事を確かめた頃、夜が明け始める。（北口町の義母の家は全壊。）ラジオをつけるが、要領をえない。その時はまだ、このような事になっているとは思っていず、家の前の国道171号線の陸橋部分が線路上に落ちているのを信じられない事のように見ていた（走っていた車も一緒に落ちていた）。

実家に電話をかけなければ、と思いつつ、家の片づけや、雑用に追われる。その日一日中、大・中・小、いろいろとりまぜて、のべつまもなく地震が来る。兄や姉達は、私達が死んだと思っているかもしれない…と思うが、しばらく死んだ事にしておこうか等と、冗談を言っているうちに日が暮れる。（後日、電話で叱られた）

この４カ月の間に本当にいろいろな事があり、一日一日が、初めての体験の連続でした。自分が激震地真っ只中にいたなんて、いまだに不思議な気がしています。

幸いにも、近くに当日から開いていたスーパーか有り、阪急西宮北口駅にも近かったため、二日目には大阪まで買物にも行け、物資には不自由しませんでした。給水車や救援物資の世話になる事もなく、自力でやってこれました。

沢山の方が亡くなられたり、財産を無くされたりしている現状で、不謹慎かもしれませんが、私にとって震災は、悪い事ばかりではありませんでした。

20数年ぶりに電話をくれた、大学・中学時代の友達。小さい身体で、水や弁当を持って見舞ってくれた大学時代の友。安否を確かめ合い、支え合った近くの友人達…すべて忘れる事のできない出来事でした。

あらためて自分の生き方を考えてみる、本当にいい機会でした。

15期　金井　澄（明石市）

（2月6日、15期全員に届いたもの。「あれで代用しておいて」とのことで）

謹啓

このたびの兵庫県南部地震に際しましては、いろいろとご心配をいただきありがとうございました。

職場や家庭に迷惑をかけないように、昨年秋の3か月にわたる東京ボケを癒すべく静かにリハビリ中？であった私にとってまさに寝耳に地震で、衝撃の出来事でした。幸いにも家族をはじめ職場の人達もけがもなく元気です。

発生時には、私自身もタンスの下敷きになり、何が起こったのかわかりませんでした。家屋や家財には多少なりとも被害がありましたが、5千人を越える死者をはじめ、災害の規模が時間の経過とともに判明するにつけ、生きていることの幸せをあらためて噛みしめている次第です。

明石市でも東部地域にかなりの被害がありました。死者5名、全半壊５３５戸があり、10か所の避難所に役４千名の市民が一時避難しました。また、学校、道路、橋梁などの公共施設の大半が損壊し、災害救助法の適用となりました。そのため、通常の業務のほか、交代制で食事の配送、給水手伝いや倒壊家屋調査などにフル回転の毎日でしたが、ようやく落ち着いてきました。

余震が続く日々ですが、何とかなるさ！と開き直りとプラス思考を行動に移す時だと頑張っております。今秋に能登で皆さんと再会し、美味しい酒と肴で乾杯できることを楽しみにしております。（注；15期同期会を11月穴水にて開催予定）

最後になりましたが、くれぐれもご自愛いただき、ますますご活躍されますようお祈り申し上げ、お見舞いのお礼とさせていただきます。

敬具

15期　宇野　潔

17期　宇野　和子（北区）

「せんせい、あのね」　うの　はるな

わたしは、はじめ　なんだか、ぐらぐらしてるっと　おもいました。そしたら、セーラームーンのほんが、ぜんぶおちてきたので　びっくりしました。

わたしは、「じしんだ。」とおもいました。

そしたら、おかあさんが、「おふとんのなかにもぐりなさい。」って、かいちゅうでんとをさがしてもってきていいました。

「あゆみ、ラジオをもってきて。」って、いいました。おとうさんはラジオをきいていました。そのあとだいどころにいきました。そしたら、しょっきだなのなかで、一ばんうえのしょっきがよこになっていました。

つぎは、おねえちゃんのところにいきました。ラジオももっていきました。

そしたら、こうべがしんど６って、ラジオで

いっていました。しんど5が、かべにひびがはいるって、おねえちゃんのきょうかしょにのっていました。えばらのおばあちゃんのうちが、しんど5でした。

わたしは、「にっぽんがしずむ。」とおもいました。でもおかあさんは、「にっぽんがちぎれる。」っていって、「ひがしはたいへいようにちかいから、ひがしにひっぱられてしずむ。」って、おかあさんはいっていました。

（地震後1週間、学校はお休みになりました。再開されてから、学校で書いた、春菜の作文です。）

原稿遅くなりまして、申し訳ありません。地震の日の事については、末娘の作文を読んでいただければ、雰囲気がわかると思います。

我が家（マンション）のある北区は、幸い、被害は大きくありませんでしたが、それでも道路や建物にヒビが入った所もあり、屋根をおおうブルーシートもまだチラホラみかけます。又、地震後は、被害が少なかった地域ということで、救援の拠点となったり、他地域からの避難や買い出しの人などで随分ザワザワしていました。今までが、山あいの小ぢんまりとした静かな地域だっただけに、余計そう感じられたのかもしれません。

我が家も、他の多くの家庭と同様、防災についての準備など何もなかったのですが、ワンゲル仕込みのアウトドア趣味のおかげで、懐中電灯、ローソク、ラジオなど、常に身近にあり、多少のサバイバル生活に必要な道具類も持っていたのは、心強かったです。

ただそれは、建物自体が無事だったからで、早朝のまどろみの中、突然家屋の倒壊に見舞われた方は、本当に余裕などなく、自分や家族の生命のことしか頭になかったことと思います。

交通網の寸断、変則的な学校生活の続く中、長女は、不安な思いで高校を受験しましたが、幸い希望通りの学校に進学し、高校生活が始まりました。とは言っても、被災地の真っ只中にある学校は、いまだに多くの方が避難生活を続けておられるため、他校のグラウンドを借りての仮設プレハブ校舎で、彼女の高校生活はスタートしました。

震災から5ケ月近くたった今、日常は戻って来つつあるものの、決して以前と同じ日常ではありません。被害の少なかった私達でさえ、見えない疲れと、どこかバランスを失ったような心をひきずっています。神戸の人達が、健康な日常生活を送れるようになるまでには、まだまだ時間が必要だと思います。

15期　高村　千佳子（北区）

（「1階だったから、湯のみが倒れた程度。大丈夫です。」との電話をもらっています。）

26期　藤田　章三

26期　藤田　靖代（加古川市）

1月17日未明。ゴーッという地鳴りとその後のすさまじい揺れで叩き起こされましたが、そこは地震オンチの関西人のこと、にわかには、これが地震とは理解できず、木造の我が家が「ギシギシ」と音たてて揺すられている様をボウ然とながめておりました。

震源地からの距離でいえば、神戸、西宮などと変わらないものの、加古川は、全壊・半壊といった被害を受けず、我が家も壁紙の破損（石膏ボードの継目で裂けた）と、基礎コンクリートの小さなひび程度ですみました。

ライフラインに関しては、水道・電気・ガス（我が家はプロパンガス）ともに無事でしたが、電話は1週間ほど使いものにならず、電車の不通、幹線道路の渋滞とともに、生活基盤の意外なもろさを痛感しました。

ともかく家族4人が全く無事で済んだことには、この震災の規模の大きさを思えば、本当に感謝せずにはいられません。

被災者の方々へ心からお見舞い申し上げるとともに、心配して下さったワンゲルの仲間達には本当に有り難く、お礼申し上げます。

平成7年6月10日

金沢大学ワンゲルOB会御中

月日の経つのは速いもので、地震のあった日から4カ月以上の日がたちました。その節はたくさんの方から、お見舞いや励ましの手紙、電話を頂戴し、ありがとうございました。

地震直後は誰もが余震に脅え、マスコミも連日被害の状況や避難所の生活を報道するなど、地震とともに暮らしておりましたが、地震直後から急に仕事が忙しくなり、日一日と忙しさの中で生々しい記憶は薄らいできた気がします。マスコミも3月中旬の地下鉄サリン事件以降はオウム真理教一辺倒の報道となってきました。今は震災のことは殆ど報道されません。自分も3月末に転居をし、被災地から離れたこともあり、阪神大震災もだんだんと遠い日の事になりつつあります。

地震のあった日は寒い頃で、水とガスがないため、結構シンドイ生活もしました。会社は地震の翌日には出てこいと、訳のわからない上司が結構薄情であったり、地震のあった日にみんなで消火活動をして、転勤族が急に町内の自治会に溶け込んだり、女房の実家に一時避難して善意に触れたりいろんなものが見えた気がしました。

今は既に初夏、梅雨入りして蒸し暑くなりつつあります。当初は復旧に相当な時間がかかると思われて山陽新幹線も4月には開通し、阪急神戸線もこの6月12日から全線開通となります。神戸三宮も「そごう」「大丸」が営業を再開し、確実に日常生活としての落ち着きをとりもどしつつあるように見えます。生活の復興とともに徐々に「思い出」の範疇になっていく気がしております。（もちろん、肉親を亡くしたり、家を失ったり、今も避難生活をしている人には「思い出」どころではないと思いますが。）

さて、「月見の宴」を予定通りされるとのこと大いに結構かと思います。OB会の運営には舟田さんをはじめ大変、お世話になりありがとうございます。今のところ予定がはっきりしませんが、地震の話で盛り上げることもできようかと思います。

なお、この手紙は6月10日に書いております。5月末締切から2週間が過ぎようかとしており、もう書かないでおこうかと思いましたが、返信用封筒もあり、何も返事を書かないのも大変失礼と思い、夜中にワープロを打っております。本当にずぼらで申し訳なく思っております。それでは、いつかまたお会いできますように。

〒560　豊中市東泉丘1－30－3（205号）
横井　恒雄

住所かわりました。

他には、

7期　飯田　利之（西宮市）
7期　富永　浩之（中央区）
8期　黒崎　史平（中央区）
8期　藤井　洋治（須磨区）
10期　藤井　直樹（伊丹市）
11期　加藤　忠好（明石市）
14期　大田　正喜（揖保郡）
17期　藤井　芳治（宝塚市）
24期　岡原　明彦（西宮市）
32期　小山　恵介（多紀郡）
33期　寺島　祥文（加古川市）
34期　松浦　真也（明石市）

の方々が兵庫県在住のOBです。8期代表の山村さんから「我期は全員大丈夫」の連絡があり、34期松浦さんは、94夏号の返信中に消息があります。

上記の方々には、今回の返信葉書にて、連絡がいただけますようお願いします。